進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
February 2
第64号
2012年2月1日発行

『公立高校倍率発表！』

1月27日、公立高校の志願者倍率が発表になりました。釧路湖陵1.11、江南1.28、北陽1.18、明輝高校1.20の倍率でした。

驚くのは工業高校、平均1.58倍で97名が不合格となります。工業高校は他校へ変更できませんので、97名もの不合格者が出るのはほぼ確定です。工業高校だったら大丈夫だろうと真剣に勉強してこなかった生徒は大変です。

更に驚くのは東高校です。過去にない倍率0.57という低さで、釧路管内では霧多布高校に次ぐ低さです。校長の責任問題になってもおかしくない状況です。

日頃から指摘している東高校の現状がこのような事態になったのだ思う。この結果を見ると東高校レベルの生徒が志望していないことになります。

その分が工業高校に集まったことになりますが、工業高校への出願が多いのは昨今の就職事情にもあるのではないかと思われます。明輝、東よりも以前から言っているように、今は就職を考えると理系の方が有利です。

実際、それを裏付けるように新年度（24年度）からの新指導要領では、圧倒的に数学、理科の内容が質、量ともに大幅に改定されます。数学、理科だけではなく、英語も『聞く、話す』重視から『文法』重視に転換され、単語数は九〇〇語から一二〇〇語へと大幅に増えます。社会も同様で、特に地理はものすごいです。出版社の人たちは「昔に戻った」と言っていましたが、それ以上だと思います。アフリカのリベリア、ソマリア、ザンベジ川、東南アジア、南アメリカ、ヨーロッパの小国など今までは考えもつかなかった国々や事項がこれでもかこれでもかというくらいに出てきます。

1・2年生1月の道コン 1/10

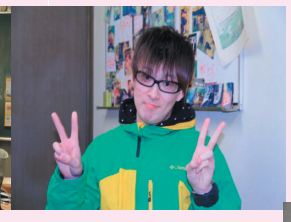
3年生道コン 1/11

コアかがやき　3年生、理科の授業

3年生は真剣です。

全国公立高校の入試問題に挑戦。広島県からスタートですが難しい！

1/28　根室育英塾での理科特講。今年度最後の第5回目を実施しました。根室は高校全入なのに、皆真剣に授業を受けていました。高校入試のためではないのです。感心しました。


2期生の卒業生、佐久間君。もう34歳のお父さんです。

札幌の専門学校で理学療法の勉強をしている卒業生の小林君、毎日午前2時まで勉強するそうです

生徒にとっても学校にとっても大変なことになりそうです。

学力の差は、学習に対する意識の差によります。夢や目標に向かっていく人は必ず学力が向上します。

どこか高校へ入れれば良いと考える人が多い釧路、根室の学力が低いのは当然の結果です。問題は高校へ入ることではなく、その三年後です。

塾生の中には現時点では合格ラインに届いていないにも関わらず倍率発表後も志望校を変更せずに頑張っている生徒が何人もいます。

結果ではなく、その過程が重要だったことが社会に出たとき、大人になったとき必ず分かります。そしてあの時がんばって良かったと思うはずです。

小学生も、中学生も、高校生も勉強を第一に考え、部活との両立を図りましょう。

新指導要領に学校がどのように対応するのかは分かりませんが、部活第一では大変なことになるのは確実です。

家庭の経済状況も質問
教育格差の実態把握へ
小中全国学力テスト
～25年度悉皆調査～

左のタイトルは日本教育新聞のタイトルをそのまま拝借しました。「悉皆」は「しっかい」と読みますが、「残らず」とか「全部」という意味です。報道の内容は左の通りです。

25年度に全国学習状況調査（全国学力テスト）が行われますが、全国すべての学校で行うという意味です。

注目すべきは、このテストで、各家庭の経済状態を調べるということです。これまで、東大合格者家庭の平均年収は1千万以上であって、家庭の経済状態と教育レベルの高さには関連があるといわれてきました。今度はそれの裏を取るということです。

テストのときにどういう形で取るのかは公表されていませんが、一部言われているところでは「家に絵を飾ってあるか」「家に辞典があるか」などだそうです。確かに、額に入った絵が壁に飾ってあったり、国語の辞典が有ったりなどというのは文化度と経済状況を計る目安になるでしょう。

この他に、学校外の学習活動（塾・習い事）の実態調査も行うようですが、こういうことは公表して欲しいですね。

なお、24年度の学力テストはこれまでの国語・算数（数学）に理科が加わる。

『二月の予定』

2月は三年生が毎日授業があります。入試まで30日余りです。まだ20点や30点はアップできます。インフルエンザも流行の兆しです。体調管理をしっかりして最後まで頑張りましょう。

なお、三年生の授業の関係で一、二年生はできる限り4時からか7時以降でお願いします

1	水	
2	木	※3年生のみ休塾※
3	金	
4	土	入試直前ゼミ①
5	日	入試直前ゼミ②
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	建国記念の日（休塾）入試直前ゼミ③
12	日	入試直前ゼミ④
13	月	
14	火	★私学入学試験★（武修館高校）※出願
15	水	変更状況発表
16	木	
17	金	
18	土	入試直前ゼミ⑤
19	日	入試直前ゼミ⑥
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	入試直前ゼミ⑦
26	日	入試直前ゼミ⑧
27	月	
28	火	※3年生のみ休塾※
29	水	

3月6日　公立高校入学試験（塾で自己採点）
3月15日　中学校卒業式
3月16日　公立高校合格発表

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

世界を知る力 日本創生編」寺島実郎著

****

今、世界情勢を語らせたらこの人の右に出る人はいない、塾長が最も信用できると思っている一人です。

この本の最初のほうに次のようなことが書いてあります。

「震災に遭った人たちが深い孤独感に襲われて、自分は一人ぼっちだ、だれも声をかけてくれる人などいないと思い込んでいる人が居るのではないか」という導入から始まって次のように進めています。そのまま引用します。

【自分がいま・ここに在るということを時間軸を遡（さかのぼ）って考えて欲しい。

まず浮かぶのは､両親の存在である。人間である以上､誰にでも父と母が居る。たとえ､すでに他界していたとしても、現在いっしょに暮らしていなかったとしてもである。

では、その父や母はどうだったかというと、やはり同じで、２人とも生まれ出づるためには、それぞれ２人の親を必要とした。あなたにとっての祖父母である。つまり、あなたがいま・ここに存在する上で必要だった人は、１世代前だけを考えれば２人だが、その２人がこの世に生を受けるためには、２世代前に４人が必要だったということになる。動揺に、３世代前には８人、４世代前には１６人・・・。世代を遡るごとに、あなたの生命に直接かかわりのある人が倍増していく計算だ。

試しに 10 世代前を計算してみると、2 の 10 乗で 1024 人があなたの生命につながっていることになる。

そこで、１世代前（両親）から 10 世代までの直径の祖先を合算してみると、あなたと直接血のつながりのある人々は全部で 2046 人に達することが分かる。仮に 1 世代を 25 年と計算すると、10 世代前は 250 年前。江戸時代中期になる。

さらに計算を推し進めて 20 世代前を考えてみよう。だいたい 500 年前、いわゆる戦国時代だ。ここまでさかのぼると、血のつながった祖先の数は膨大なものになる。2 の 20 乗で 1048576 人。１世代前（両親）から 20 世代前までの祖先を合算した数は、2097150 人に達する。これはもう、ほとんど背筋の寒くなるような数字と言えないだろうか。】

どうでしょうか。この後、戦乱で耕作地は荒れ、人を切ること殺すことを何とも思わなかった戦国時代を生き延び、深刻な大飢饉や自然災害などの天災が日本列島を襲い、死者が続出した江戸時代を生き延びてきた祖先が生命のバトンを渡してきたから今我々が存在している、と論を進めている。

【(祖先たちは）幸福な人など数えるほどだったかもしれない。現在とは比較にならないほど貧しく、差別を始め、途方も無い不条理が存在していた時代の日本を、誰もが生きてきたのである。

こうした環境のなかで、直結する祖先の誰一人欠損しても、わたしやあなたの生命は存在しなかった。】

この文を読んで子ども達に分かってほしいこと、伝えたいことはたくさんある。親の言うことを聞かないとか、わがままを言うとか、余りにも恵まれすぎた環境と過保護の中で何を言っているのだと。世界を知り、日本を知り、自分を知ることです。

****

木村智哉君からのメール（1）続きは次回

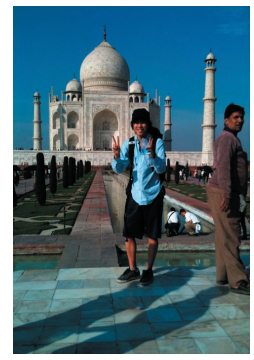
****

僕は東京の大学に通っているこの塾の卒業生です。１年ほど前にインドに２週間ほどひとりで旅行に行ってきました。二週間という短い時間ではありましたが、日本じゃ決して出来ないような経験がたくさんできました。そこでの思い出を少し書いてみようと思います。

旅行の期間は二週間、往復の航空券をネットで予約した以外はホテルも乗る列車もどこに行くかさえも何も決めずインドに乗り込みました。行き当たりばったりの旅がしてみたかったのです。しかし、当然ながらハプニングやトラブルの連続。もちろん主要言語であるヒンドゥー語はナマステ以外喋れないし、英語だって単語を並べただけのカタコトで、飯を食うのもホテルを探すのもかなりの重労働でした。それを初日に嫌というほどわからされました。

空港はとても綺麗で、想像していた雑多なインドのイメージとはかけ離れてなんだか拍子抜けでしたが、ニューデリー駅に着くと、期待を裏切らないインドらしさで、ようやくインドに来たという実感がわき嬉しくなりました。しかしその喜びも束の間で、しばらく歩いていると混沌としているデリーの街の雰囲気に少しながら恐怖を覚え、さらに時間は夜の８時を過ぎすっかり日は暮れているのに泊まるところも決まってない不安で一気にさっきまでの高揚した気分はどこかに消え去り、一泊目の宿くらいは予約すればよかったと早速後悔していました。デリーという街の雰囲気を例えるなら、バットマンに出てくるゴッサムシティのようなとてもダークな雰囲気です。なんとかおびただしい数の客引きと物乞いをかわしてシャワーもトイレも共同の安宿に転がり込みました。やはり気張ってたのか部屋に入ると一気にどっさり疲労を感じて、その日はすぐに眠ってしまいました。

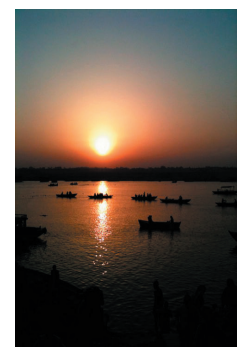
次の日、何日かデリーに滞在しようかとも迷いましたが、デリーの人たちと話していても最後はお金をせびるか変なツアーに申し込ませようとしてきて次第にデリーの人全員が詐欺師にみえてくるようになって気分はどんよりするばかりなので、デリーを早々に脱出することにしました。インド旅行最後の数日間はデリーで過ごさなければならなかったのですが、結局デリーという街は好きにはなれませんでした。人が冷たいデリーは一人で旅行する人にとって居心地が悪い街なのかなと思いました。



というわけで、タージマハルを見ようと思いバスでアグラという街まで六時間かけて向かいました。インドで長距離バスを利用したのはここだけでしたが、道中はインドの田園風景を眺めていたり隣に座ったバングラデシュから来たおじさんとの会話であっという間でした。アグラについてすぐにタージマハルに向かいました。タージマハルは期待を裏切らない圧倒的なスケールのお墓でした。いままで見た建造物で間違いなく一番美しかったです。

タージマハルは中にも入れるのですが、中は案外パッとしませんでした。結局数時間タージマハルをあらゆる角度から眺め眼に焼き付けたところで一泊もせず街を出ることにしました。というのもタージマハルとアグラ城を見たらもうアグラは特に見るところもない小さな街で、さらにたくさんのインド人がインドに来たならバナラシに行けとこの２日間で何度も言われ、実際ガンジス川は見たいと思っていたので、そのまま寝台特急でバナラシという街にいくことにしました。この寝台列車が地獄でした。一番安い 250 円の寝台にしたのですが、そこは当然エアコンもなければ、というか窓が完全に閉まらず強すぎる隙間風が吹き付け、枕も掛け布団もない最悪の寝台でした。僕の乗った車両には外国人は自分だけで他は全員インド人でかなり心細かったのを覚えています。さらには一つの車両に２人もライフルを持った軍人がドアを警備していました。タダ乗りする人や度々起こる車両内でのトラブルに対処するためだそうです。あまりの寒さに一睡もすることが出来ず、ガタガタと 14 時間震え続けました。冗談ではなく死ぬかと思いました。ちなみに他の乗客は持参した分厚い毛布にくるまって寒さをしのいでいました。最安値のチケットだったのである程度は覚悟してましたが、ここまで過酷なものとは思いませんでした。

バナラシ到着は予定より二時間も遅れました。列車が数時間遅れるのはインドでは常識。時刻表などあってないものらしいです。その日はすぐ安宿に転がり込み、布団にくるまりひたすらに眠り続けました。バナラシという街は聖なる河として名高いガンジス河が流れるインドで一番の聖地で、その河で沐浴をするべく各地から集まるヒンドゥー教の人たちとそれを見ようと世界中から集まる観光客で年中ごった返しています。



結論から言うと、このバナラシという街は最高でした。バナラシに着いてひたすらに眠った僕は翌朝４時に目が覚めました。そこでガンジス河で朝焼けを見ようと思い、急いで宿を飛び出しました。しかし一向に夜はあけず、犬たちが街の中を奇声をあげながら走り回ったり、犬同士で噛みつき合い血だらけになっていたりと、ただならぬ恐怖を感じました。それが狂犬病に侵された犬達であるということと、噛まれたらまず間違いなく死に至るという知識は持ち合わせていたので、ガンジス沿いで夜勤真っ最中の警察官と日本でいうホームレスの人たちがしていた焚き火に混ぜてもらい時間をつぶしました。当然街灯などなく、狂犬病の犬たちの徘徊する夜の街を歩く人などもおらず、この焚き火のみが犬が近づかない唯一の聖域でした。警察官と僕は椅子に座り、ホームレスは地べたに座っていました。ホームレスの彼らにイスに座らないのかとたずねても首を横にふり続け、警察官からもそんな必要はないと一喝されてしまいました。こんな露骨な差別をインドでは嫌というほど目にしました。廃止されたはずのカースト制度ですが、いまでも根強くインド人を縛り続けていました。

２時間ほど焚き火をしてようやく日の出を見ることができました。インドの夜明けは遅いようです。それにしても、ガンジスで沐浴をする人々や四方八方から聴こえる祈りの声などの独特の雰囲気も手伝って、とても幻想的な日の出でした。

このガンジスの日の出の美しさに魅了され、それからバナラシを離れるまで毎日朝日を拝むために早起きして出かけました。死ぬまでに是非もう一度見たい光景です。